

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ミカ⑦－戦争が終わるとき』

武田真治牧師

ミカ書 3：9-4：3 ヨハネ福音書 16：20-24

ミカは、故郷のモレシエトという小さな村で神様から預言者としての召命（＝神様からの幻と言葉が与えられる）を受けて、首都エルサレムに行き、人々に（このままでは）エルサレムが滅亡するから、悔い改めよと語り掛けました。それが今日の箇所にもあります「お前たちのゆえに、シオンは耕されて畑となり、エルサレムは石塚に変わる」という“神様の裁きが来る”という預言でした。実は、この言葉がこの後約100年後にもう一度、イスラエルの人々が引用している箇所があります。それがエシマ書26章17節以下の箇所です。そこには「この地の長老が数人立ち上がり、民の全会衆に向かって言った。『モレシエトの人ミカはユダの王ヒゼキヤの時代に「万軍の主はこう言われる。シオンは耕され畑となり、エルサレムは石塚に変わり、神殿の山は木の生い茂る丘となる」と。ユダの王ヒゼキヤとユダのすべての人々は、彼を殺したであろうか。主を畏れ、その恵みを祈り求めたので、主は彼らに告げた災いを思い直されたではないか。』とミカの預言をそのまま引用しているのです。そして大事なことは、ミカがその預言の言葉を語ったときに、“ユダの王ヒゼキヤとすべての人々は、主を畏れ、その恵みを祈り求めた”のだと。まさに彼らは“悔い改め、主に助けを願った”のでした。その結果「主は彼らに告げた災いを思い直された」と。これは実際の出来事で、BC701年に再びアッシリアがユダに攻め込んで来てエルサレムを包囲した時のことでした。王や人々が祈り求めたため、なんとアッシリア軍が包囲を解いて、撤退していったのでした。まさに奇跡でした！

この出来事を踏まえて、ミカが4章の最初の預言をしたと言い得るのだと思います。即ち「多くの国々が来て言う。『主の家に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。』御言葉はエルサレムから出る。主は多くの民の争いを裁き、彼らは剣を打ち直して鋤(すき)とし、槍を打

ち直して鎌(かま)とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」と。国連本部に掲げられている有名な平和の宣言です。ミカは、いつか必ずこの地上でエルサレムを中心とした平和が来ると信じていたのです。しかし今に至るまで実現していないばかりか、この言葉がユダヤの人達のシオニズムを生みました。私たちはこの“平和”がヨハネ黙示録21章にある「聖なる都エルサレムが、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。」という“終末”に実現するものだと思えます。それまでは、世界中の「多くの国々」の人々と一緒に「御言葉に聞く」という、この地上の“礼拝”を続けながら、その日が来ることを祈り求めて行くのです。

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 11月1日(水) 20:00
II. 11月2日(木) 10:30

聖書：ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題：永眠者記念礼拝・墓前礼拝を覚えて
担当者：(水)水澤 (木)柿澤
祈りに覚える人：高橋さん 高梁さん
*教会バザー 11月3日(金) 午後1時～3時

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女57 計75
祈禱会 I. 男6 女2 計8 II. 男2 女9 計11
日曜学校 幼稚科8 小中科10 計18
ひつじ雲の会(10月24日(火)) 男0 女6 計6

【次週一召天者記念礼拝】 11月 5日(日)

聖書：ミカ 4：4～8
ルカによる福音書 14：15～24
説教：「召天者記念礼拝・ミカ⑧一人はそれぞれ自分の木の下に」 武田真治牧師
讃美歌：382(1)、32、聖歌隊-532(1編)、385(1～2)、385(3～4)、379(1～2)、28

【次週当番表】

司式：羽倉長老 奏楽：勝村 礼拝：保坂長老
献金：羽倉 橋本 受付：飯島 森本
配餐：茨木 金刺 坂田 羽倉
保坂 各長老
会堂準備：浅井 阿部 齋藤 山田
看板：保坂 週報：岩佐 お花：森本

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後：・11月誕生者祝福 ・お茶の会 ・牧師と語る会
・聖歌隊練習 ・会堂管理委員会
・墓前礼拝(青葉園にて) 13：30より

2023年 10月 29日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>